

清元秀泰市長おおいに語る!

昨年8月、清元・飯島2氏の市長立候補表明者(当時)の誌上対談を行った。選挙の結果は、清元秀泰氏が当選し新市長に就任した。

そこで屋保連では、昨年の誌上対談・今年4月に行われた公開討論会・5月の当会定時総会での挨拶(4面参照)を踏まえ、8月2日、大西雅之代表幹事・糺川英毅事務局長代理(平成15年に提案書・署名簿を提出した当時の姫路青年会議所理事長)が姫路市役所を訪れ、懇談会を行った。



大西: まずは姫路市長選挙ご当選おめでとうございます。

糺川: 今日は、昨年の飯島さんとの対談で発言された事などを踏まえ、その後の動向を伺いに参りました。

68番地問題

清元: 市長に就任してから色々な方々のご意見を聞いて来ました。先ず場所ですが、行政の中ではある物活用の議論もありますし、去年の屋保連さんの誌上対談でも話が出た、姫路城ミュージアム(仮称)に絞ってしまうと、一番のネックは“68番地問題”所謂、文化庁対応ですね。

元々簡単には許可が得られない土地で、姫路城ミュージアム自体がクリアすべき課題が多い事に加え、祭りや姫路城跡特別史跡とのつながりが必要になって来る。

大西: その点については我々も、昨年提出した「姫路城・姫路藩等所縁 屋台装飾調査 報告書」で苦労しました。なかなか直接的な接点が見出せなくて…。

清元: 例えば、江戸時代に「ザ・まつり」の様な事を三の丸などの城郭内で行った事があるとかの史実があれば、文化庁が推進するリビングヒストリーと合致するのですが。

私は姫路城ミュージアム(仮称)に固執してはいません。昨年の誌上対談で、駅周辺の話を出したのもそういう気持ちからです。JR・山電・商店街の協力も必要になるでしょう。

文化財としての展示力



糺川: “68番地問題”と言えば、兵庫県立博物館が近くリニューアルされると聞いています。その事はどうかお考えですか?

清元: 姫路市としても、姫路城の北側にもお客様に来て貰いたいですし、そうすると展示物等の重複は避けなければなりません。教育施設としての側面を持たせる事も含め、とにかくあらゆる事を想定して検討しているのが現状です。

そこで問題となるのが、文化財としての屋台の展示力ですね。例えば、屋保連さんが蒐集しておられる、播州祭・屋台文化に関する寄贈・寄託物件。まだまだ歴史が浅く、博物館的要素はあるにしても文化財的価値がまだ出て来ていない。というのが正直なところではないでしょうか。むしろ伝統文化の継承は無形文化財の側面が重要。

屋台だけでなく、例えば獅子舞などのもっと色々な要素を加えなければなりませんね。

糺川: それは我々も同感で、平成15年に提出した「播州屋台会館(仮称)早期建設提案書」でも触れています。

視野を広げると言う点では、市長は昨年の誌上対談で「はりま伝統文化の継承館(仮称)」の構想を話されました。

清元: そうです。明珍火箸や姫革細工などものづくりの心意気を凝集させた施設と抱き合わせにする必要があるのではないのでしょうか。例えば、屋台のパーツ製作工房を見せる、ものづくりを体験させるなど、播磨の伝統文化の一環に屋台文化を採り入れれば、有形無形両面での継承になると思います。」と話しました。

加えて申し上げれば、姫路仏壇などにも力を入れたいし、刀の作り方・研ぎ方ひとつとっても、そこには匠の思い入れがあり、町名の由来に繋がって行く。



採算…

大西: 昨年の誌上対談で市長は、赤字になるでしょうね。と言っておられますが、そうは言っても無視出来る問題でもないと思います…。

清元: 平成20年に、これも屋保連さんがレポートされた「匠の技-播州祭り 屋台伝承展」アンケート結果と考察に詳しく書かれています。ここでは有料でも充分な来場者が見込める。とありますが、これはあくまでも、イーグレひめじで無料で行った展示会の来場者へのアンケートですので、所謂、魔のマーケティングになってしまう可能性が無きにしもあらずです。先日、福井県の敦賀に行ってきたが、気比神社と云う由緒正しいお宮があり、

姫路の三つ山大祭の様な祭りがあり、山車(やま)が練り出されるのですが、ここに会館がある。6基の山車の蔵にもなっている。この会館の年間来場者が何人あると思いますか? 何と10,000人に満たないのです。

糺川: これも良く話題になるのですが、単独施設か、複合施設かと言う事に関しては如何でしょうか?

懇談終了後、笑顔でガッチリと握手を交わす
(左)糺川屋保連事務局長代理 (中)清元姫路市長
(右)大西屋保連代表幹事



清元: 先ず、祭りという事ではアーカイブスは充実させたいですね。そこに映像に力を入れて載ける企業のスポンサーシップが得られれば、大いに盛り上がります。

有形・無形どちらも大事ですが、有形となると、先程の敦賀の例にも見られます様に、屋台を保管するには大きなスペースが必要で、そうするとコストパフォーマンスを発揮させるのが大変になる。単独施設にしる複合施設にしる実現への大きな壁ですね。

選択と集中…民衆のパワー

清元: 姫路市は13のブロックに分かれています。市長としては勿論どのブロックも大切ですし、発展させなければなりません。そこで一つのキーワードは選択と集中です。資金の問題もありますし、素材そのものに魅力があるかと言うのも大きな意味を持って来ます。また、その選択と集中への大きな力となるのが「民衆のパワー」ではないでしょうか。その支えが無いと、箱ものを作っても3年で潰れてしまうでしょうね。

大西: では、その地域のパワーとは具体的にはどのようなものなのでしょうか?

清元: 例えば、文化として発展させたいなら、4月の公開討論会でも言った事ですが、定期的に担ってもらわないといけない。そこで、大手前を練り歩きます。といった時に、その地区が金銭面である程度ボランティア精神を発揮してくれるか!? おそらく個人への日当などは出せないと思います。そういう意味でボランティア的に人を出せるか、動員力があるかというのは、選択と集中の大きな要素に成り得ます。

何故なら、その民衆の熱意が観光客に伝わらない筈がないと思うからです。

そうした意識調査を、屋保連さんには行ってもらえたら。

大西: 今まで出た事柄は、16年前の提案書に殆ど書いたつもりですし、祭り地域の民衆の意気込み・



パワーという点についても12年前の、寄贈・寄託物件聴き取り調査で証明したと思っています。おそらく今調査しても同等の物件は集まるでしょう。

只、いま市長が仰ったボランティア意識の調査まではしていませんでした。やらないといけないのであれば、もう一踏ん張りやりましょう!

糺川: また、民衆の熱意という事であれば、今年の選挙での得票数が109,365票、当会の署名簿の人数が109,442名、ほぼ同数だが、僅か67名ながら当会の方が多い(笑)この数字は重たく、パワーも感じて戴けるとは思います。